

る狩野孫四郎茂重入道の裔なるべし。

永享八年 丙辰 紀元二〇九六

四月七日。右衛門少尉宗有、珠洲郡本光寺に、同寺領若山莊西海馬縹浦恒利名の山崩を認め免状を與ふ。

【本光寺文書】 珠洲郡

八三九

免除

若山庄内西海馬縹浦恒利名内

合貳段五者 在所金山田

右依山崩歎申間、所免除狀如件。

永享八年卯月七日

宗 有 在判

(裏書カ) 此正文於京都可有御糺明由候也。

永享十年三月 日

□ □ 在判
上 使 在判

(永享五年二月九日の條参照。又西海馬縹浦とある

は、西海浦の一部馬縹浦の意なるべし。

永享九年 丁巳 紀元二〇九七

二月。古室、鳳至郡總持寺に、宗祖道元の書せる佛遺教經を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

八四〇

傳來交割品目錄

承陽大師筆佛遺教經 一卷

奥書云

此經者永平開山和尚御筆也。總持寺丈室之公用。

古室和尚寄附之

永享九年丁二月日誌之

五月七日。茂重、山城臨川寺に、加賀郡大野莊

示野村一王丸名及び石川郡赤土村中九郎名之散

島を寄進す。

【天龍寺文書】 山城

八四一

奉寄進

加賀國臨川寺御領大野莊示野村之内一王丸名ト赤土村之内中九郎名之散島等之事

合貳名者 但爲心休禪門迫腐也。年忌五月四日安勝地藏殿。

右件之名者、得分毎年二名之分、船斗之定拾斛、重書并作人之請文等相添寄進申處也。仍爲後證寄進狀如件。

彦左衛門

永享九年五月七日

茂 重 在判

寄進 加賀國大野湊住

【天龍寺文書】

八四二

大野庄心休禪門寄進狀之註文

示野村一王丸名分

一、寄進狀一通

一、重書六通

一、書狀二通

以上拾肆通

赤土村中九郎名分

一、重書七通

以上

(示野は岸川右岸に、赤土は左岸に在り。)

八月六日。源備前守、珠洲郡海會寺に、その寺

領を安堵せしむ。

【本光寺文書】 珠洲郡

八四三

能登國若山庄西海馬縹浦海會寺領貳段捌事

任應永元年六月十日、同十六年八月三日、永享四年七月

八日三通之支證旨、爲當知行不可有相違領掌之由、所

被仰下也。仍而執達如件。

永享玖年八月六日

備前守源朝臣

(備前守源朝臣は恐らくは預所なるべし。)

八月六日。源備前守、珠洲郡本光寺に、その寺

領を安堵せしむ。

【本光寺文書】 珠洲郡

八四四

寄進 本光寺

能登國若山西海馬縹浦本光寺領深反壹半事